

家畜衛生だより 平成29年5月号

紀北家畜保健衛生所	電話	073-462-0500
紀南家畜保健衛生所	電話	0739-47-0974
紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所	電話	0735-58-1481

◆◇ 牛のアルボウイルス感染症について ◇◆

ゴールデンウィークも過ぎ、気温も上昇してきており、日中は真夏日となるような日もあるようになってきました。気温の上昇とともに畜舎や周辺に蚊やヌカカ、ダニなどが増えてきていませんか？これら吸血昆虫の体内において病原体が増殖し、様々な伝染病を感染させることがあり、総称して「アルボウイルス感染症」と呼んでいます。これらの感染は吸血昆虫が動き出す夏から秋頃におこり、風邪様症状や流死産、子牛の先天異常などを引き起こします。また、地球の温暖化などの気候変動や国際的な物流が増大・広域化する中、日本国内で確認されていなかったウイルスが分離されてきており、これまで以上の対策が重要となっています。

～主な牛のアルボウイルス感染症～

○牛流行熱

ヌカカなどの吸血昆虫により感染し、突発的な発熱、呼吸異常、流涙、流涎等の症状を示します。致死率は1%程度と低く、ワクチン接種による予防が可能です。平成27年には九州以北で24年ぶりの発生がありました。

○イバラキ病

ヌカカなどの吸血昆虫により感染し、発熱や泡沫性流涎、鼻汁などの症状を示し、重篤なときには咽喉頭、食道麻痺による嚥下障害を生じます。致死率は10%程度で流死産が起こることもあります。ワクチン接種による予防が可能です。

○アカバネ・アイノ・チュウザン病

ヌカカなどの吸血昆虫により感染し、感染した母牛自身に異常は認められませんが、流死産、産子の異常、難産などがみられます。特にアカバネ病に関しては、毎年全国各地で散発的な発生が確認されています。ヌカカの活動時期前にワクチン（牛異常産3種混合不活化ワクチン等）を接種することで予防が可能です。

近年の発生状況（単位は頭）

	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8
牛流行熱		1 5	2		2 2	
イバラキ病			2			
アカバネ病	3 2 6	5	8	2	3	2

* アイノウイルス感染症はH 2 0に3頭、チュウザン病はH 1 9に2頭が国内最終発生。
出典：家畜衛生週報

○近年新たに確認された牛のアルボウイルス感染症

平成 11 年に長崎県と宮崎県で初めて確認されたピートンウイルス、同じく岡山県で確認されたサシュペリウイルス、平成 14 年に宮崎県と鹿児島県で確認されたシャモンダウイルスなどがあります。これらはまだ病原性がはっきりとわかっていない点も多いですが、ヌカカによる媒介、牛の異常産に関与していると考えられています。

牛流行熱、イバラキ病、アカバネ・アイノ・チュウザン病に関しては、各地域での流行状況を予察するため、6月から11月までの間4回子牛の採血を実施しますので、対象となった農家をご協力をお願いします。

アルボウイルス感染症を防除するためには、ワクチン接種や感染源となる吸血昆虫との接触を防ぐことが重要です。具体的には、畜舎・周辺の掃除、適切な堆肥処理、水たまりをなくすなどの対策や石灰消毒などにより吸血昆虫の発生を減らし、吸血昆虫と接触しないように防虫ネットによる侵入防止や殺虫剤、イヤータッグなど忌避剤の活用も有効です。

特に異常産の発生は、胎子のみならず母牛の損失につながることもあり、ワクチンによる防除が重要となります。

気になることや不明な点がございましたら、最寄りの家畜保健衛生所までご相談ください。

